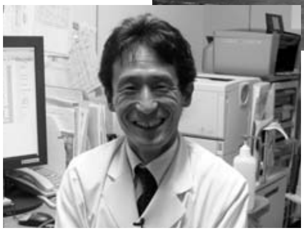
Zoom in

地域包括ケアセンターいぶき

2階建て,横に長いいぶきの建物.2階が老健の居室.

「3年半前にこのセンターができてから2年間くらいがしんどかったです」と畑野先生は笑う.それまでは診療所の医師としてこの地域の医療に邁進してきた.ところが「いぶき」になってスタッフが10倍に増えた.老健も持った.それだけでなく,複合施設としてさまざまな機能を調整する役目がセンター長である自分に回ってきた.しんどくって落ち込んだ.そんなとき先生の心を助けてくれたのが,地域の人々だった.地域の消防隊長に,地域のレストランのソムリエに,地域のペンションのオーナーに助けられた.「地域が好き」という畑野先生の再スタートはそうして徐々に軌道に乗りはじめた.



センター長　畑野秀樹先生

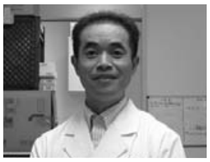
畑野先生が花を愛でる伊吹山

畑野先生は,平成5年,自治医大卒業後の義務派遣で当時の伊吹診療所に赴任した.3年で異動の予定がすでに16年.伊吹町が町村合併で米原市となったのをきっかけに,平成18年4月,地域医療振興協会を指定管理者として,複合施設である「地域包括ケアセンターいぶき」が誕生した.

いぶきは,本体の診療所のほか4つの出張診療所と今年度から近江診療所の運営も受託.訪問看護ステーション,居宅介護支援事業所,デイケア,そして老健の複合施設である.診療所は,平均外来患者数120名,科を限らず何でも診る,『その人の専門医』という医療だ.訪問診療はいぶき80名,近江30名.老健は60床.ここの老健は,本当の意味で在宅までの中間施設.入所期間は例外なしの3ヵ月まで,ショートステイも半月までを限度としている.在宅復帰率は9割と非常に高い.現在60床のうちショートステイを30床に増床したため,毎日10～15名の入退所がある.ショートステイを利用し,リハビリによって生活機能を上げたり,家族に休息してもらうことが目的だ.こういった施設は長くいる入所者が"顔"となったりしがちだが,ここは3ヵ月経つと退所し,次に入所するときは"新参者"になるため,人間関係もうまくいっているのだと畑野先生は言う.

スタート時の基本理念は「在宅支援とリハビリ」.診療所の医師として1人で務めていた頃から在宅医療に力を入れていた.センターとなってももとよりそれは変わらない.在宅医療に力を入れてきたのは,急性期が終わればできるだけ早く住み慣れた家に帰って家族と共に自分のリズムで生活したいというのが,住民の望んでいることで

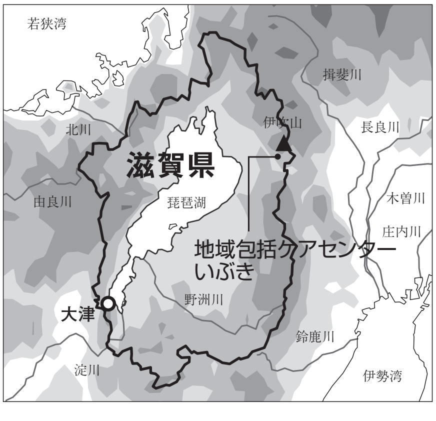
受付



薬剤師 久保健次さん
「外来調剤と老健入所者の定期調剤を担当しています」

外来処置室

看護師 水上幸子さん
「在宅支援診療所として地域に密着した住民サービスを心がけています」



畑野先生外来中.
子供の患者も結構多い.

事務部長 清水浩一さん
「地域の方が安心して暮らせる施設づくりをしていきたいと思います」

事務 高木生子さん
「事務職員8名で頑張っています」

老健60床は4つのユニットに分かれている.

ささゆり,しもつけの運動会.
ユニットごとに競い合って
毎回さまざまなイベントを企画している.

老健相談員 谷川明子さん
「入退所を多くしたので大変ですが,
『地域支援とリハビリ』を理念に
頑張っています」(谷川さんは裏
のセンター長と呼ばれている)

患者さんの家族も同席して退所カンファレンス

サービスステーションでカンファレンス

はないかと考えたからだ.そしてその希望を叶えることが地域の医師の役割であり,地域全体が病院,家がベッド,電話がナースコールである.

米原市の高齢化率は約25%,全国よりも10年早く高齢化が進んでいる.最近,畑野先生は考えるようになった.自宅に帰る医療が必要なのは,患者さんのためだけではないのではないか.家には「生」があり「病」があり「老」があり「死」がある.高齢者は先生だ.孫はそれを見ることで親子の思いやり,家族のつながり,そして生を教えられる.30年後,60年後に,なおも家族の絆を大切にして思いやりをもてる地域づくりをしていくために,在宅医療が重要なのだ.だから,いぶきは今,理念を「地域支援とリハビリ」に修正した.

病気を治すだけでなく,住民を元気にすることで町づくりをする.それがいぶきスタッフの目指すところだ.

畑野先生の訪問診療に同行した.

1軒目は,片麻痺があるおじいさんを奥さんが1人で介護しているお宅.先生の簡単な診察が終わると手作りのお菓子で歓待してくれた.大きな体のおじいさんをベッドから車椅子に移動させるのが小さな体の奥さんにとってどんなに大変か･･･息を切らしながら実際にやってみせてくれた.そして「施設に入れるということは考えたこともない.絶対に最後まで自宅で自分が看ていきたいと思う.若いころはケンカをしたり誰でもいろいろある.でも長く一緒にいて,今はたった二人なのだから.若い人たちにも年をとったら相手を最後まで在宅で看てほしいと伝えたい」と奥さんはうっすら涙を浮かべて話してくれた.

ここのお宅の向かいは中学校.カーテンを開けた広い窓越しに,学校帰りの中学生たちは皆,先生とご夫婦に手を振って行った.

朝のミーティング.各部署が一日の予定をホワイトボードに記入してみんなで確認.

通所リハビリテーション

畑野先生の奥さんも
ここで働いている.

通所リハビリテーション 箕浦友敬さん
「病院を退院されたあと,施設を退所されたあと,
その後のフォローはデイケアに任せて下さい!」

リハビリテーション室 リハスタッフは6名.

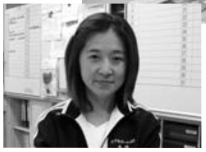
理学療法士 西村てるみさん
「『地域支援とリハビリ』という理念のもと,
元気にリハビリに取り組んでいます」

2軒目のお宅.声をかけたが返事がない.畑野先生は構わずガラガラと玄関を開けてズカズカ患者さんの部屋まで入っていく.都会と違ってこのあたりでは玄関の鍵を閉めることは多くはないという.家族がいなくても医者が勝手に入れるから,娘もお嫁さんもお年寄りに留守番を頼んで働きに出られる.留守番という役割がまたお年寄りを元気にさせる秘訣でもある.その代わり家族がいない昼間,患者さんのケアは在宅スタッフが担当する.

患者さんは93歳のおばあさん.診察を終えて先生と患者さんが話していると,奥から幼稚園から帰ってきたという男の子が顔を出した.患者さんの顔が明るくなった.

訪問診療で教えてもらうことが多い.

訪問看護ステーションと居宅介護支援事業所.
いぶきの在宅ケアをここが支える.



訪問看護ステーション管理者
北川満里さん
「地域の方が安心して生活できるように,また終末期を安心して自宅で迎えられるように居宅介護事業所と一丸となって頑張っています」

向かって左・介護支援相談員 森本洋子さん
右・介護支援相談員 西村妙子さん
「複合施設なのでいろいろな機能と連携をとってよりよいサービスを提供できるようにしています」

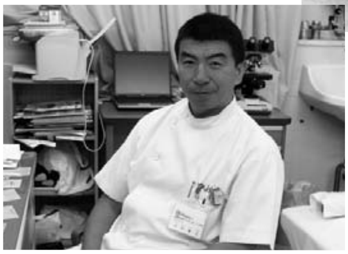
3軒目のお宅.江戸時代三代に渡って御所の侍医を務めたという家系の92歳の女性.自身は日赤の看護師として戦時中は救護班として働いたという話を,不整脈で心不全があるとは思えないくらいきちんと正座し,ピンと背筋を伸ばして話してくれた.このお宅の往診に,先生は学生や研修医を伴う.病気を診るというより,人生の話を聞くことが学生実習になる.また自分の人生を若い世代に伝えることが,患者さんにとっても張りになり良い影響を与えているという.

吉槻診療所

畑野先生は,自分たちの思いを継ぐ若い世代を育成する必要性を感じて,研修に取り組んでいる.だからいぶきには研修医が多く集まる.研修場所は地域,そして「私たちが医師を育てる」という地域住民の理解がある.

開設してもうすぐ4年.いぶきは今,地域を元気にすることで,自分たちもますます元気になっている.

公式ホームページ http://www.cc-ibuki.jp/hospital/html/index.html
畑野先生ホームページ http://www.biwa.ne.jp/˜hatabo/



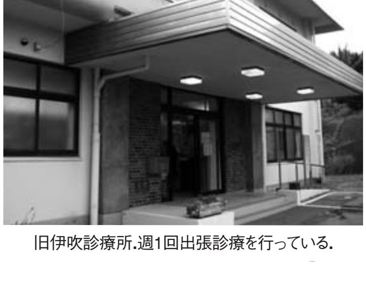
副センター長,介護老人保健施設施設長
中村泰之先生
「こちらは出張診療所の一つ,吉槻診療所.看護師不足で事務員と二人で頑張っています」
中村先生は開設時から畑野先生と力を合わせていぶきを支えてきた.4つの出張診療所の診療は主に中村先生が担当.また畑野先生と毎日交代で訪問診療に取り組んでいる.現在老健施設長も兼務.

事務 児玉恵子さん
「看護師不足で忙しいですが,地域に根ざした医療を提供しており,住民の方に喜んでもらっていると思います」

板並診療所.
お寺の境内の中に建っているのは物置?と思ったら診療所.

待合室は3畳分ほど.
患者さんの話を待合室で聞くのも研修医の勉強のうち.

ここが診察室.



旧伊吹診療所.週1回出張診療を行っている.

地域包括ケアセンターいぶき
〒521-0314　滋賀県米原市春照58-1
TEL：0749-58-1222　●センター長　畑野秀樹